

日本の知恵、
プラスチックの知恵

おかずの見張り番

「五月蠅うるさい」とは、初夏のころから飛びまわる蠅の動きのこと。下水などのインフラが十分でなかった昭和時代の中ごろには蠅も多く、作り置きのおかずや使いかけの調味料などを保存する蠅帳はいらょうが活躍していました。三方が網戸になった戸棚型や、食卓の上から傘のように被せる覆い型があり、湿気を逃がす網の機能で食品が腐敗しないように工夫をして、冷蔵庫が普及していなかったころには頼りにされていました。

この蠅帳のように、衛生的に食品の鮮度を保つ素材が、住友ベークライトの青果物鮮度保持フィルムP-プラス[®]です。目には見えない小さな穴で、青果物の呼吸を調整し鮮度を長く保つ機能を持ち、これまでの食品の生産管理や保存期間、流通までを変える青果物鮮度保持フィルムです。



P-プラス[®]

ミクロの穴でフィルムのガス透過性をコントロールし、青果物の呼吸特性に最適なガス環境を作り出して、成長や劣化のスピードを遅らせます。すでに多くの青果物で実績済み。ブランド化、差別化、廃棄ロスの低減など、様々なメリットをもたらします。



蠅帳

プラスチックのパイオニア

 住友ベークライト株式会社

フィルム・シート営業本部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <http://www.sumibe.co.jp>

